

2018年1月4日

各 位

JXTGホールディングス株式会社

2018年 会長・社長 年頭挨拶について

明けましておめでとうございます。

本日、当社会長 木村 康および社長 内田 幸雄からグループ社員に向けた年頭挨拶がありましたので、その要旨につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

<会長 木村 康 年頭挨拶>

1. 世界経済・国内経済

世界経済は持続的な成長を遂げている。一方で、昨年は「変化」に向けた動きが徐々に顕在化した。今後も景気回復の継続が期待できるものの、中東・北朝鮮などの政治面のリスクを注視しなければならない。

日本経済は、景気回復の軌道を維持しているが、消費税増税も見込まれるなど、この堅調な経済をいかに持続させるかが今後の課題である。

2. グループ社員への期待

当社グループの中期経営計画が今日まで順調に進展しているのは、皆さんが統合を前向きに捉え、何をなすべきか、どうしたら新しい文化を築いていけるかを真摯に考え、議論し、行動してくれたからであると評価している。ただし、現状に満足することなく、会社のさらなる発展、そして永続を目指して業務に取り組んでほしい。

そのために皆さんにお願いしたいのは「発信」することである。変革を一生懸命考えている人や会社を良くしていこうという強い気持ちを持った人は、発信する。声高に訴えかけることがあってもいい。本当に必要なこと・変えたいことがあれば、食ってかかるほどの気概をもって臨んでほしい。

その前提として、周りをよく観察し、よく考えてほしい。この観察・思考のプロセスがなければ、いくら発信しても実のある結果を導き出せない。そして、発信した後はすぐ行動に移すことが大切である。この観察・思考・発信・行動のサイクルが、変革を成し遂げなければならない当社グループにとって不可欠である。その中で、前向きに躊躇なく発信することが最も重要なプロセスである。

3. 結び

本年は戌年である。株式相場の格言では、「戌笑う」という。JXTGグループも、確実に統合シナジーの最大化と早期実現を成し遂げ、革新性あふれる施策でエネルギー・資源・素材の各事業分野のトップランナーとして躍動し、格言どおりに笑って明るい1年が過ごせるよう、意欲的に仕事を進めていこう。

<社長 内田 幸雄 年頭挨拶>

1. 当社グループを取り巻く事業環境

エネルギー・資源・素材事業分野では、省エネ・低燃費車普及・再生エネルギー利用の進展などにより石油製品の内需は引き続き減少しているが、国内需給環境の引き締まり、輸出環境の好転により高いマージンの状態が続いている。石油・天然ガス開発・金属鉱山開発などの上流事業においては、資源価格の上昇傾向により厳しい事業環境からは脱しつつあり、金属事業の電子材料分野ではIoT技術の進展により高い稼働が続いている。

昨年は、JXTGグループとして新たな船出を果たし、これに伴い策定した中期経営計画の初年度の目標に向かって順調に歩みを進めることができている。また、当社の株価も昨年末には700円を超え、株式市場からも好意的に評価されている。

とはいえ、新体制はまだ始まって9か月しか経過していない。常に危機感をもって、日々の変革や改善の手綱を緩めないでほしい。

2. 本年の事業課題

(1) エネルギー事業

統合シナジーを早く・大きく積み上げるとともに、国際競争力を有した事業基盤を確立してほしい。アジアでの中・下流事業での進出を引き続き具体的に検討するほか、潤滑油・機能材事業の拡大や、次世代の柱となる事業の育成に取り組む必要がある。

(2) 石油・天然ガス開発事業

操業費の削減等により低油価でも耐えられる収益構造＝低油価耐性を確保するとともに、中東・東南アジアを中心に、採算性をよく見極めたポートフォリオの組替え、自律的な財務構造の構築が大切である。

(3) 金属事業

過酷な環境の中での冬場対策も含め、カセロネス銅鉱山の生産を当初想定どおり高め、高い銅価でのビジネスチャンスを確実に取り込んでほしい。また、佐賀関製錬所での設備更新・増強投資による収益性向上を確実にしてほしい。電材加工事業では、増大が予想される需要に対応するとともに、機能・品質の向上に努めることが大切である。

3. グループ社員への期待

まずは当社グループ理念のさらなる理解・浸透が重要である。この理念も踏まえ、グループ社員に期待したいのは次の2点である。

(1) コンプライアンスおよび安全の徹底

コンプライアンスとは、法令・規則・社内規定などのルールを遵守することにとどまらない。取引先との「契約」に定められている義務の履行も重要である。お客様や社会全体からの信頼を確保するためにも、改めてコンプライアンスを徹底する意識を高め、違反・問題はないか入念に確かめてほしい。この意識と確認の積み重ねが、企業が社会で活動するための大前提である。

また、安全についても、すべてに優先する課題であると捉え、日々の点検、リスク管理、計画的な研修・教育をしっかりと押し進めてほしい。

(2) 挑戦・変革に関する行動

従来の方法が目的に合っているか、最善なのかについて疑問を持ち、先ずもって改善に向けた具体的な行動を起こしてほしい。挑戦や変革の種は、経験に裏打ちされた既成概念の枠外にも多々ある。現状のままを前提とせず、安易に妥協することなく、提案・行動を起こしてほしい。効率的かつ効果的な内部統制システムの構築、統合基幹業務システム(ERP)の導入により、経営の見える化を可能にすることで、新たな課題の発見や挑戦・変革の推進を支えていく。

4. 自由闊達なコミュニケーションの風土構築

経営からの約束として、「自由闊達なコミュニケーションの風土構築」に努めたい。

昨年9月から「対話の場プログラム」という研修を開始した。先ずは当社とJXTGエネルギーの管理職約1,000名を対象として、一泊二日の合宿形式で、役員も交えて、会社の向かうべき方向性や変革の必要性を共有し、自由闊達にコミュニケーションできる雰囲気づくりのために必要なリーダーシップ・行動について話し合っている。企業風土を変えていくことは、会社発展のために不可欠なプロセスだと考えている。

5. 結び

新しい年を新鮮な気持ちで迎え、全社員が健康で、かつ、いきいきとした姿で活躍することを願っている。

以上